



郷土資料室だより

鈴鹿市文化スポーツ部文化財課

第17号



昭和19年製 戦時統制下で作られた五月人形

昭和19年に初節句を迎えた男の子のために用意された五月人形です。「日本玩具統制協会」の印が貼られています。日本玩具統制協会とは、金属類の使用が禁止された戦時中に、玩具の素材を査定し、資材の配給を行っていました。当時の玩具の多くには、日本玩具統制協会の査定に合格した証紙が貼られています。五月人形も統制の対象の玩具として扱われていたようです。様々な統制が行われる中でも、子供の健やかな成長を願い、五月人形を詠えた親族の思いや、限られた素材で人形の制作に挑んだ職人の姿などが思い起こされます。6月まで庄野宿資料館で展示しています。

この郷土資料室だよりでは、郷土資料室で保管する古文書を中心とした史資料について紹介していきます。

郷土資料室

〒513-8701 三重県鈴鹿市神戸一丁目18-18
Tel 059-382-9031 Fax 059-382-9071

発行/鈴鹿市文化スポーツ部
文化財課

発行日/2023年4月25日

特集 安政大地震の爪痕①

嘉永七年（十一月二十七日）安政と改元・一八五四）から安政二年（一八五五）、幕末の僅かな間に日本列島は、四度もの巨大地震に見舞われました。これを総称して「安政大地震」と呼びます。左記は各地震の呼称と年月日、震源地と地震規模です。

- ① 安政伊賀 嘉永七年六月十五日
木津川断層 M7.2
- ② 同 東海 同年 十一月四日
遠州灘 M8.4
- ③ 同 南海 同年 十一月五日
土佐沖 M8.4
- ④ 同 江戸 安政二年十月二日
江戸川河口 M6.9

今回は、伊勢国北部に甚大な被害をもたらした、最も多くの史料が残されている安政伊賀地震について詳しく見て行きましょう。

この地震は、本震前々日の六月十三日に前震による液状化現象（固結していない地層が、振動で急激に流動して地盤が沈下し、建造物に大きな被害が発生する）が起き、十五日深夜に古今未曾有の大震災が起きた後、余震が約一ヶ月も続く群発地震となりました（『三重県史通史編 近世一』）。

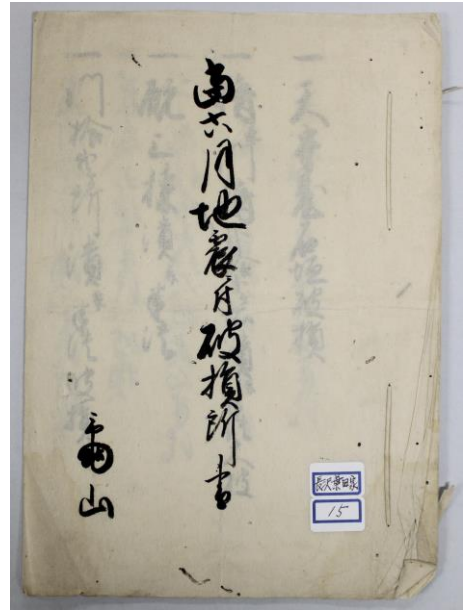


『葉田家文書』(亀山藩領・鈴鹿郡長沢村)より

亀山城は、鎌倉中期の文永二年（一二六五）以来、関氏代々の居城でした。その後、安土桃山時代の天正十八年（一五九〇）、豊臣秀吉の家臣・岡本良勝（宗憲）^{そうけん}がこれを廃し、本丸・二ノ丸・三ノ丸を整備し築城しますが、江戸前期の寛永九年（一六三二）、あるう事が、幕府から丹波亀山城の修築を命じられた堀尾忠晴が間違えて天守閣を解体するという悲劇に見舞われ、同十三年に城主となった本多俊次が大修築し、白い城壁が連なる景観から「粉蝶城」と呼ばれました。安政伊賀地震に見舞われたのは十代藩主・石川総禄の時です。^{いしかわふさよし}

写真は、十八世紀半ばの亀山城と城下町の絵図（No.39 *1）です。亀山は、城下町であると共に東海道の宿駅が置かれた宿場町であり、さらに亀山宿茶屋町（現本町）は、幕府が政情視察のために派遣した巡見使が通る「巡見街道」の起点でもありました（*2）

次の『当六月地震二付破損所書』（No.15 写真は表紙）は、先ず①で亀山城の潰滅的な被害を、②で領内全体の被害を記し、さらに欄外（長方形で囲んだ所）には、冒頭の安政東海地震による被害の拡大が付記されています。



① 「一」

- 一 天守台石垣破損、
- 一 櫓^井門櫓式拾式ヶ所潰^井半潰・大破、
- 一 厩三棟潰^井半潰、
- 一 門拾式ヶ所潰^井半潰・破損、
- 一 番所拾六ヶ所潰^井半潰・破損、
- 一 米蔵五棟半潰^井破損、
- 一 二ノ丸住居不残大破、奥向半潰、
- 一 土蔵^井物置、拾八ヶ所半潰、
- 一 客屋^井中間小屋五棟半潰、
- 一 文武稽古所^井諸役所共式拾七ヶ所潰^井半潰・破損、
- 一 惣堀凡五分通潰、四分通半潰、外瓦・壁落石垣損数ヶ所、
- 一 城内外土居響シ破れ、地面下り石垣損シ数ヶ所、

② 「一」

- 一 惣家中、凡五分通潰^井半潰三分通大破損、
- 外、土蔵・物置・堀数ヶ所潰^井破損、

- 一 領内村々住居家、凡五分通潰^井半潰、四、
- （付札）式百三拾軒、十一月四日地震
- 外土蔵・物置^井堀・石垣数ヶ所潰破損、
- 一 領内寺社破損、凡六分通潰^井半潰、式分
- 通破損、
- （付札）此分式拾ヶ所、右同断、
- 外二土蔵・物置・堀数ヶ所潰破損、
- （付札）此分十一月四日地震二付増、
- 一 怪我人 五拾式人
- 一 死人 三拾八人
- 一 田畑損地凡叁分五厘

外

- 一 橋落溜池崩、井溝崩、土手崩、堤崩、往還道損シ、堰落、山崩作道損シ夥數^{おびただしく}、
- 御座候、此入用金凡五千兩程、
- （付札）十一月四日右同断、

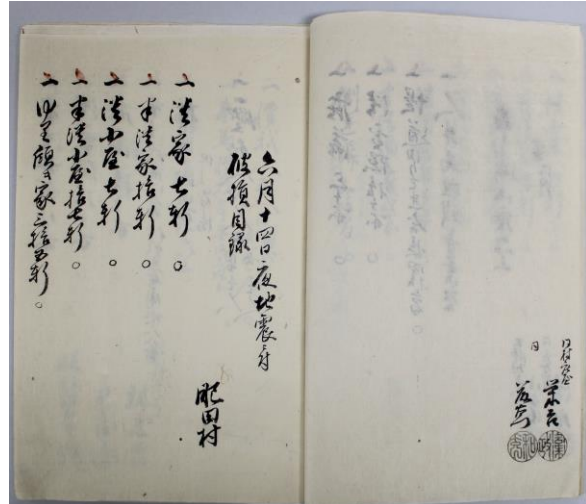
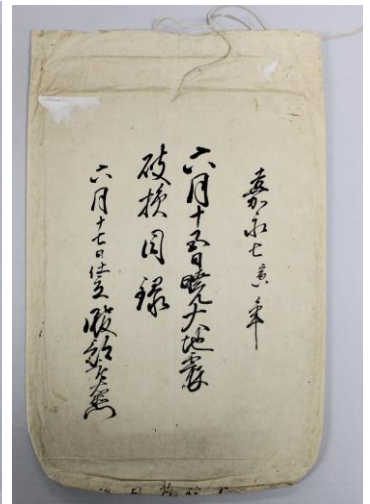
なお、両度に亘って甚大な被害を蒙った鈴鹿郡長沢村には、嘉永七年十月及び翌安政二年四月の『大井溝寄夫御普請奉願候帳』合本（『羽田家文書』No.160）が残されていますので、稿を改めてご紹介したいと思います。

（*1）絵図中央に本丸・二ノ丸・東三ノ丸があり、左下「岡本下野守宗憲」の項に「同（天正）」

十七年、龜山之城本丸・二ノ丸・三ノ丸、且殿主ヲ建ル、其節、大手東向キ、青木門ハ南向、黒門者北向ナリ、十ヶ年居住ス、と墨書されている。（*2）龜山から鈴鹿山脈に並行して北上し、美濃国関ヶ原に至る街道（現在の国道三〇六号線）で、伊能忠敬も文化十一年（一八一四）三月、西日本測量の帰途、巡見街道を通っている（『鈴鹿市史』第二巻第二章第八節）。全国の幕府領や私領の支配の実情を視察する巡見使は、五代將軍綱吉以降十二代將軍家慶迄、將軍の代替わりごとに派遣されたが、その送迎や接待は村方の大きな負担となった。

『服部家文書』（津藩領・河曲郡肥田村）より

本章で紹介致します『六月十五日暁大地震 破損目録』（No.483-1）は、天保十四年（一八四三）、津藩肥田組の大庄屋に任命された服部庄右衛門（第十三号参照）が、玉垣村・土師村・肥田村・須賀村・中戸村・池田村（以上河曲郡）、貝塚村・河原田村・松本村・寺方村・平尾村・佐倉村・桜一色村・江村・赤水村・海老原村・山之一色村・東阪部村（以上三重郡）の破損目録を合冊、集計した物です。写真は袋と本文の一部で、集計の際に付された朱点と丸印があります。



(表紙)
 嘉永七^寅年
 六月十五日暁大地震破損目録
 村々方取集、惣目録を付
 合帳巻冊、外二目録計巻通 肥田組
 添差上候事、
 合帳も別目録も平綴上書認遣ス、

それでは次の二点を踏まえながら、肥田組全体の被害状況を見てみましょう。

①潰は、天井あるいは屋根の一部が地面について「伏屋」の状態になったものを意味し、半壊・破は現代の「全壊」(一度完全に壊さないと修復出来ない家)の場合もあり得る。②全壊家屋5%以下を震度5強、6〜20%を6弱、21〜70%を6強、71%以上を7とする。(『安政東海地震・安政南海地震報告書』(平成十七年三月)所収「古文書記載からの震度の推定」より)

「六月十五日暁大地震二付、破損目録

肥田組

- 一 潰家 八拾貳軒
- 一 半潰家 百三拾八軒
- 一 圧死人 拾壹人
 内^{男五人} 女六人
- 一 怪我人 拾七人
 内^{男七人} 女拾人
- 一 潰土蔵 貳拾四ヶ所
- 一 半潰土蔵 四拾壹ヶ所
- 一 潰物置蔵 拾ヶ所
- 一 半潰物置蔵 四ヶ所
- 一 潰小家 五拾九軒
- 一 半潰小家 五拾七軒
- 一 ゆり傾キ家 百三拾五軒
- 一 同小家 六拾八軒
- 一 潰味噌蔵 四ヶ所
- 一 潰酒造蔵 壹ヶ所
- 一 半潰酒造蔵 三ヶ所
- 一 潰井戸屋形 四ヶ所
- 一 潰雪隠(便所) 百拾壹ヶ所
- 一 半潰雪隠 五ヶ所
- 一 庇落 三拾貳ヶ所
- 一 潰本堂 三ヶ寺
- 一 半潰本堂 三ヶ寺
- 一 潰聖天堂 壹ヶ所
- 一 潰地藏堂 壹ヶ所
- 一 潰道場 貳ヶ所
- 一 半潰後堂 壹ヶ所
- 一 潰門 三ヶ所
- 一 潰廊下 壹ヶ所
- 一 半潰廊下 壹ヶ所
- 一 潰塀 百七拾九間
- 一 潰鐘つき堂 壹ヶ所
- 一 潰庫裏 壹軒
- 一 半潰庫裏 壹軒
- 一 潰社 壹ヶ所
- 一 石燈籠落 四基
- 一 堤欠ヶ所合長六百拾三間(約1.1km)
- 一 往還道田畑川欠ヶ共
- 一 堤道ゆり割れ合長千百貳拾四間(約2km)

一 半潰用水尺八筒巻ヶ所

但、他領立会

一 橋落 拾七ヶ所

内 拾三ヶ所 土橋
四ヶ所 石橋

一 本田苗てん（稲を植えつける田）ゆり込凡巻町五

反（計15反。4500坪）

一 牛馬怪我等無御座候、

右之通御座候、以上、

真六月

服部庄右衛門

さらに、左記の『六月十五日暁大地震破損之模様書上候後、再度破損目録』（六月廿九日付 No. 4 83—3）を見ますと、打ち続く余震のため、傍線の建物に追加の被害が見られます。

「一 潰家 巻軒

一 半潰家 三拾巻軒

一 半潰小家 拾八軒

一 潰・半潰雪隠 七ヶ所

以下、各村役人が服部庄右衛門宛に報告した破損目録につきましても、前掲二冊及び『肥田組各村・寺院からの被害届綴じ合せ』（No. 483—2）を照合しながらご紹介します。

「六月十五日暁丑上刻（午前一時〜一時四十

分 *3）過大地震二付、破損目録

玉垣村

一 潰家 拾軒

一 半潰家 拾七軒

一 半潰後堂 巻ヶ所

一 潰門 巻ヶ所

一 半潰廊下 巻ヶ所

一 潰味噌蔵 四ヶ所

一 半潰酒造蔵巻ヶ所

一 潰物置蔵 拾ヶ所

一 半潰物置蔵四ヶ所

一 潰井戸屋形四ヶ所

一 潰塀拾四ヶ所合長七拾四間（約133m）

一 潰雪隠 拾九ヶ所

一 圧死人 巻人女

一 怪我人 式人内男巻人 女巻人

一 牛馬怪我等無御座候、

右之通二御座候、以上、

真六月十六日

同

八郎兵衛（印）

同庄屋加談

喜惣兵衛（印）

同村庄屋

玉置勘左衛門（印）

同

森田源七（印）

玉垣村に関しては、大量の破損追加目録があります。まず六月十七日付で、怪我の様子を具体的に記し、

「潰家二相成申候、怪我人腰を打立痛 出来不申候、

忠蔵

家内四人

潰家二相成申候、怪我人足之甲を打 足立不申候、

甚六娘

この

家内五人

右之通二御座候、以上、
次に六月十九日付で、後堂・門・廊下の破損を詳述し、

「一 高田門徒（浄土真宗高田派）正信寺

後堂 梁七尺（約2・1m）

高塀長合式拾貳間（約39・6m）

同村

蓮花寺

一 高田門徒

廊下 梁貳間半（約4・5m）

桁拾巻間半（約20・7m）

門 貳間（約3・6m）通り

高塀長合式拾五間半（約45・9m）

さらに同日付で、被害の増加を届け出ています。

「去ル十五日後、日々震動、且白雨（*4）等二冊

下地相弛ミ候故哉、昨十八日迄追々破損

目録

- 一 半潰家 貳拾八軒
- 一 半潰小屋 五ヶ所
- 一 潰半潰雪隠 七ヶ所

次の土師村は、郷蔵（年貢米の保管や凶作飢饉

に備える共同の穀物倉庫）の大破という惨事に見舞われるも、これを機に宿願の場所替えを願っています。

「六月十四日夜地震二付、破損目録

- 一 潰家 三軒
- 一 半潰家 拾壹軒
- 一 潰聖天堂 壹
- 一 同地藏堂 壹
- 一 同道場 貳ヶ所
- 一 潰小屋 五軒
- 一 半潰小屋 七軒
- 一 潰土蔵 貳ヶ所
- 一 半潰土蔵 八ヶ所
- 一 潰酒造蔵 壹ヶ所
- 一 半潰酒造蔵 貳ヶ所
- 一 倒れ堀 三拾間（約54m）
- 一 庇落 三ヶ所
- 一 潰雪隠 拾ヶ所

- 一 堤道ゆりわれ合長四拾三間（約77・4m）
- 一 人・牛馬怪我等無御座候、

右之通御座候、以上、

- 土師村年寄
- 小兵衛（印）
- 同庄屋加談
- 清助（印）

同村庄屋

栄吉（印）

同

藤右衛門（印）

「郷蔵 壹ヶ所

- 梁 貳間（約3・6m）
- 桁 五間（約9m）
- 但、三尺（約90cm）二三間半（約6・3m）庇付、

右郷蔵之義、年久敷相立柱・土台等朽居、近來所々取繕ひ仕來申候、然ル所、六月十四日夜之大地震、大破二及び、最早取繕ひも出来兼候様二相成申候、尤右郷蔵、里中、西寄二御座候、東寄之人家、凡六丁（町・約654m）余も相隔テ、冬分短日之時節、東寄、御年貢米持運び候義、甚夕難波仕候二付、近來場所替之義、毎々願出居候義二御座候、何卒立替仕候様被為仰付被下

候ハ、難有可奉存候、則大工呼寄為見積、

尚左官・瓦屋積り書共、別紙帳面差上申候、

尤古木・瓦共用立候分者可成丈相用ひ可申候間、乍恐願之通御聞届被成下候様奉願上候、

また、六月十七日付で次の破損目録も出しています。

「真言律宗

- 一 聖天堂 壹（印） 福善寺

但、桁行四間半（約8・1m）

梁行貳間半（約4・5m）

- 同
- 一 地藏堂 同寺

但、貳間四面（約3・6m）

南西二三尺（約90cm）之庇付、

高田門徒

- 一 道場 壹ヶ所

但、桁行五間（約9m）

梁行五間半（約9・9m）

高田門徒

- 一同 壹ヶ所

但、三間四面（約5・4m）

貝塚・河原田・平尾・桜一色村も寺院破損目録を出していますが、松本村は六月十七日・閏七月

二十日の二度に亘って、唯一の神社再建を願いでいます（左記）。

「六月十四日夜丑中刻（午前一時四十分〜二時二十分）過頃地震二付、破損目録

松本村

一 潰社 壱ヶ所

一 潰小屋 貳軒

一 半潰小屋 壱軒

一 潰雪隠 三ヶ所

一 橋落 壱ヶ所

但石橋

一人・牛馬怪我等無御座候、

右之通ニ御座候、以上、

松本村年寄

加蔵（印）

六月

同村庄屋

儀大夫（印）

同 村山宗七（印）

一 社壱ヶ所

但、桁行三間
梁行貳間 瓦葺礎

右之通、当村氏神牛頭天王、去ル十四日夜地震こずてんのう

潰候故、破損目録被申上候二付、乍恐此段御訴申上候、以上、

「一 氏神社御屋壱ヶ所

但、桁行三間
梁行貳間

右者、去ル六月十四日夜之大地震二而潰候二付、其節御訴申上置候、然ル処、村方氏神之義二付、社内之松木貳三本伐取売払候而、右代金を以已前之通再建仕度旨、村方一統申出候二付、此段奉願上候、乍恐御聞届被成下候ハ、難有可奉存候、以上、

最後にご紹介いたしますあこず赤水村は、先述の玉垣村同様負傷者の詳述により、大黒柱の伊右衛門が最も重体である事が窺えます。

「六月十四日夜地震二付、破損目録

赤水村

一 潰家

一 怪我人

右之通ニ御座候、其外死人・川除堤せうしよ・切所

（山道などの通行困難な所）・橋落・山落・

牛馬怪我等一切無御座候、

右御案内申上候、以上、

六月

年寄

権右衛門（印）

同村庄屋

木村新十郎（印）

服部庄右衛門殿

一 潰家本家壱軒 怪我人 伊右衛門

桁行五間

梁 三間

瓦葺礎

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

年四十八

妻年三十四

うた

たね

しん

十次郎

萬吉

メ六人

骨痛之儀、余程六ヶ敷申候、

右之者共寝込居候哉、家内不残出後レ打倒候を、近所見付破り出候処、小子四人ハ無難ニ御座候、妻之儀ハ少々之怪我ニ御座候へ共、伊右衛門義ハ余程之痛所ニ御座候二付、所々之医師江診察為仕候処、

（*3）現代の「定時法」に対し、江戸時代は夏至の昼間の一刻を約二時間十分、夜間を約一時間五十分（冬至は逆転）とする「不定時法」を用いた。また、一日を十二の刻として十二支の文字を当て、一刻をそれぞれ上刻・中刻・下刻と三等分した。

（*4）夏の夕方に降る局地的な激しい雨。雷を伴う事が多い。

（次号に続く）

令和4年度 報告

*資料整理

郷土資料室で収蔵する歴史資料について、次の資料の整理を行い、目録を作成した(正法寺文書については、自治会からの依頼を受けて実施)。目録作成済みものは、公開用にデータの調整を行い、鈴鹿市文化財課のホームページ「鈴鹿市文化財ガイド」で順次公開する。写真資料については、寄贈を受けた資料を中心にスキヤニングし、データ整理を行った。伊勢型紙については、令和三年度末に高島雍子様から寄贈を受けた資料の写真撮影と目録作成を進めている。

目録作成

岡田家資料 山中家資料 正法寺資料 長谷川家追加資料 南長太自治会資料 鈴鹿市立図書館移管資料 庄野地籍図 石薬師役場文書 白江野用水関係資料 市史編纂関係資料 松野家追加資料

古写真整理

石井様寄贈資料 野口様寄贈資料 神戸中学校(戦時中)写真 神戸風景写真 稲生小学校アルバム 轟様提供写真 神崎様寄贈写真 辻様提供写真

型紙整理

高島雍子様寄贈型紙

*発行物

郷土資料室だより 十三号(四月)・十四号(六月)・十五号(十月)・十六号(二月)

*出前講座

野起自治会 松阪公民館 若松公民館 白子公民館 鼓ヶ浦公民館 若松小学校

*取材・掲載対応

刊行物 朝日小学生新聞(四月二十一日付)／月刊なごや(七月号)／駿台文庫大学入試対策問題集／二〇二三版幕末維新大全カレンダー／『日本をつくった郷土の偉人大事典』／文部科学省教科用図書及び教科用特定図書／清水書院『つなぐ世界史 第二巻 近世』／『無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会』「型紙と型染」報告書／『学研まんが ZEM』世界の歴史』九巻／北海道フィンランドウィークプレス発表資料／「三重県指定名勝伊奈富神社庭園 七島池をひもとく―古代庭園のこれまでとこれから」リーフレット
放送 皇學館大学放送部四月ドキュメンタリー「伊勢型紙」／NETBSプレミアム放送番組「美の壺」／テレビ朝日「クイズプレゼンバラ エティーQさまー!」／CTV「まほろば 幕末の肖像写真 長谷川雪当を写したのは誰?」／CTV「まほろば 金生水の恵み」／鈴鹿市文化振興事業団放送セミナー「軍都から近代都市へ―鈴鹿市を形づくった時代―」
その他 鼓ヶ浦周辺古写真 パネル貸出 鼓ヶ浦懐かしい写真・資料展／福山城博物館モニタークイズ

*閲覧・撮影対応

庄野宿高札 個人／下谷集(松野家文庫) 閲覧撮影 個人／廣瀬野新開一件 尾州様御鷹場一件 取調帳 他(葉田家文書) 閲覧撮影 個人／漂流船実録 画像提供 古文書を読む会／古代型紙 閲覧撮影 個人／日下部鳴鶴書(襖) 閲覧撮影 個

*資料収集

寄贈 内裏雛(安政二年)／河曲同窓会通信2点／鯨船部材／卒業証書(鈴鹿海軍工廠工員養成所)／中川武夫関係古写真／神崎家(白子)関係古写真／坂口平美関係古写真類／松野家文庫追加資料

人／六月十五日暁大地震破損目録(服部家文書)

他 閲覧撮影 個人／七月七日風雨破損目録(服部家文書) 閲覧撮影 個人／伊藤家資料 撮影閲覧 個人／役用日記他(服部家文書) 閲覧撮影 個人／大庄屋任命書(服部家文書) 他 閲覧撮影 個人／第十六番記録(服部家文書) 他 閲覧撮影 個人／平尾村無足人山田藤左衛門自害一件(服部家文書) 他 閲覧撮影 個人／第九番記録(服部家文書) 他 閲覧撮影 個人／御城内領分絵図(葉田家文書) 他 閲覧撮影 個人／請込一札(高宮文書) 他 閲覧撮影 個人／画工系入計算簿(北村家資料) 他 閲覧撮影 東京芸術大学／白子地籍図 閲覧 個人／鈴鹿荘関係資料 閲覧撮影 個人／御用万留帳(葉田家文書) 閲覧撮影 個人／書画小船帳(黒田家文書) 閲覧撮影 個人／山辺御井之碑(大場氏収集資料) 他 閲覧撮影 個人／村々惣人数高増減目録(服部家文書) 他 閲覧撮影 個人／懐古帳(黒田家文書) 他 閲覧撮影 個人／九六式空三型改一電信機 閲覧撮影 個人／電通学園関係資料 閲覧撮影 個人／権現町村・寺家村玉垣村水論評定所裁許絵図(権現町村寺家村文書) 他 閲覧 個人／長谷川雪当湿版写真(長谷川家文書) 他 個人